

第8回神奈川県美術展

第8回神奈川県美術展

1973

主催=神奈川県美術展委員会
神奈川県教育委員会
神奈川県

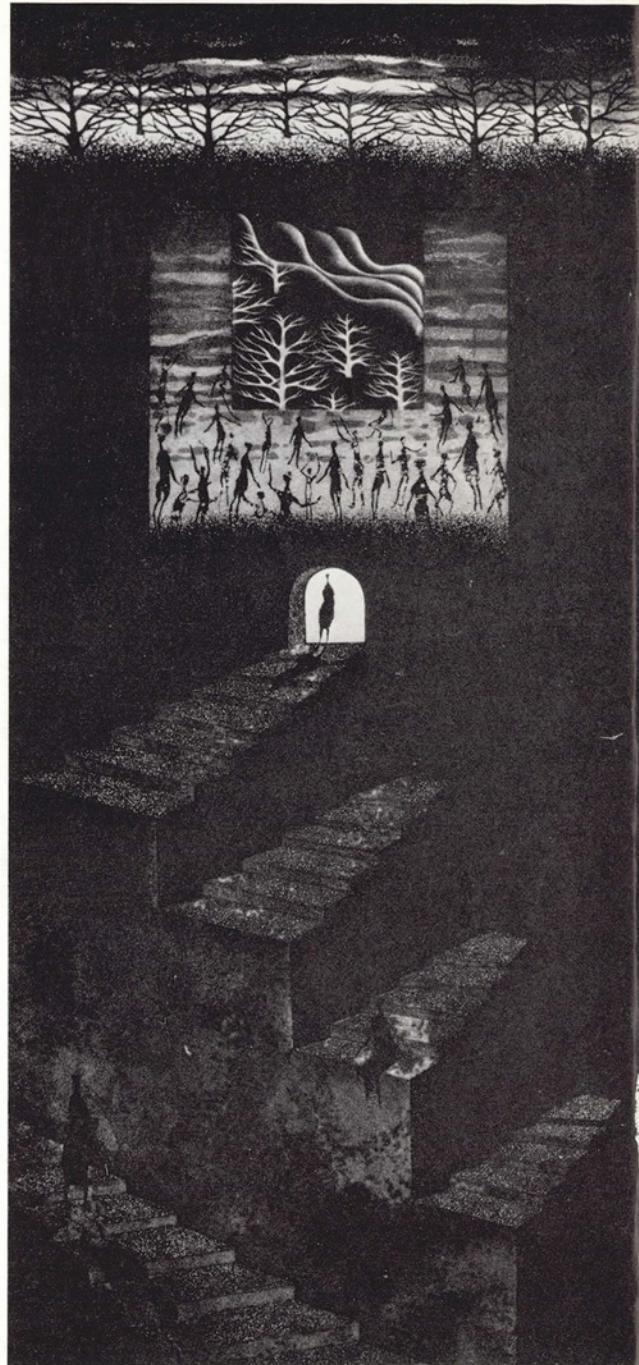
会 場 会 期 部 門

神奈川県立近代美術館 3月3日—3月18日 コンクール部門 日本画・洋画・水彩
版画・彫刻・立体造形

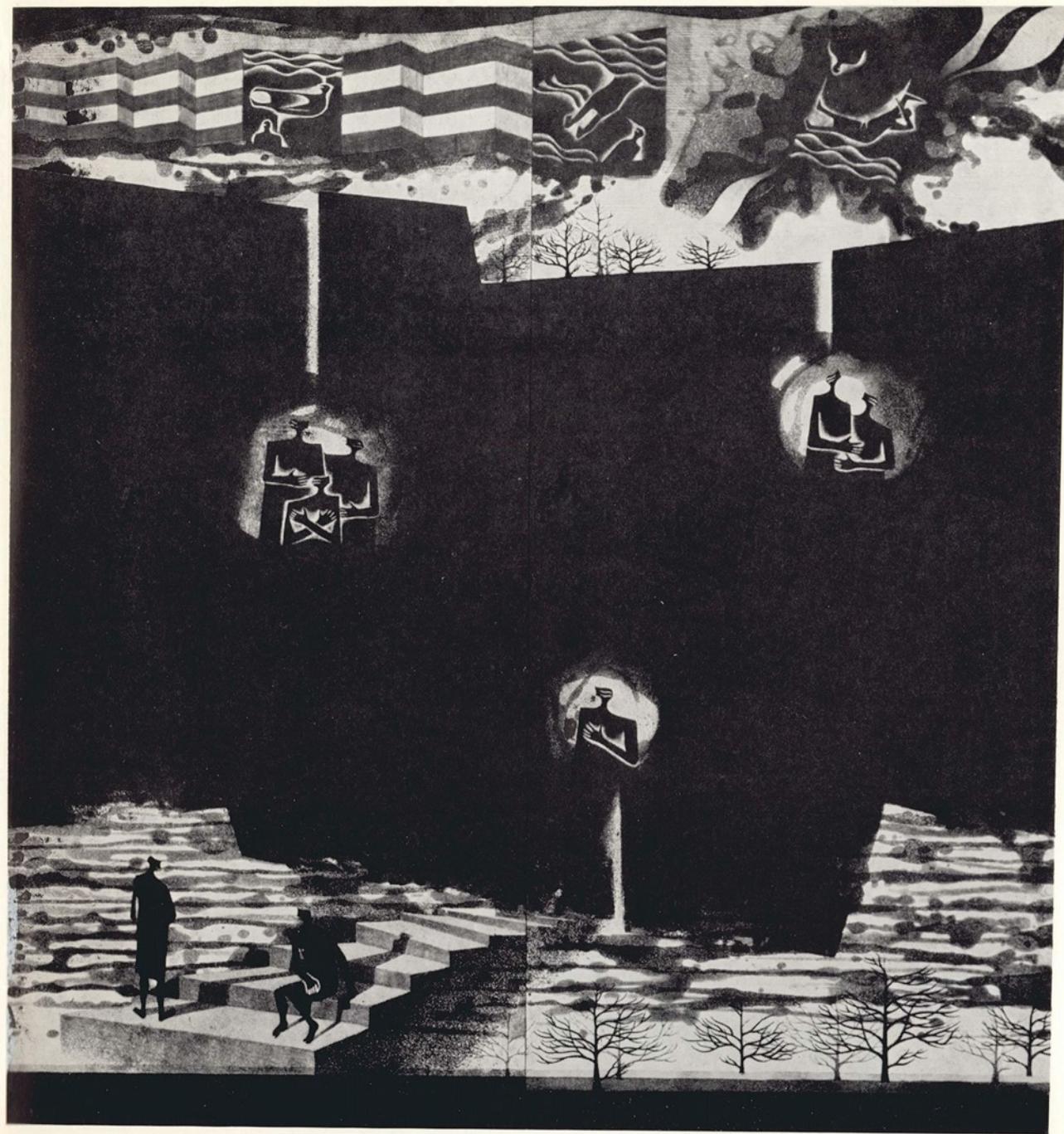
神奈川県立博物館 3月3日—3月18日 コンクール部門 工芸・書・写真
招 待 部 門 日本画・洋画・水彩
版画・彫刻・立体造形
工芸・写真

有隣堂本店 3月6日—3月14日 招待部門 書

コンクール部門



大賞 佐々木英夫 人間の風景1.2（版画）





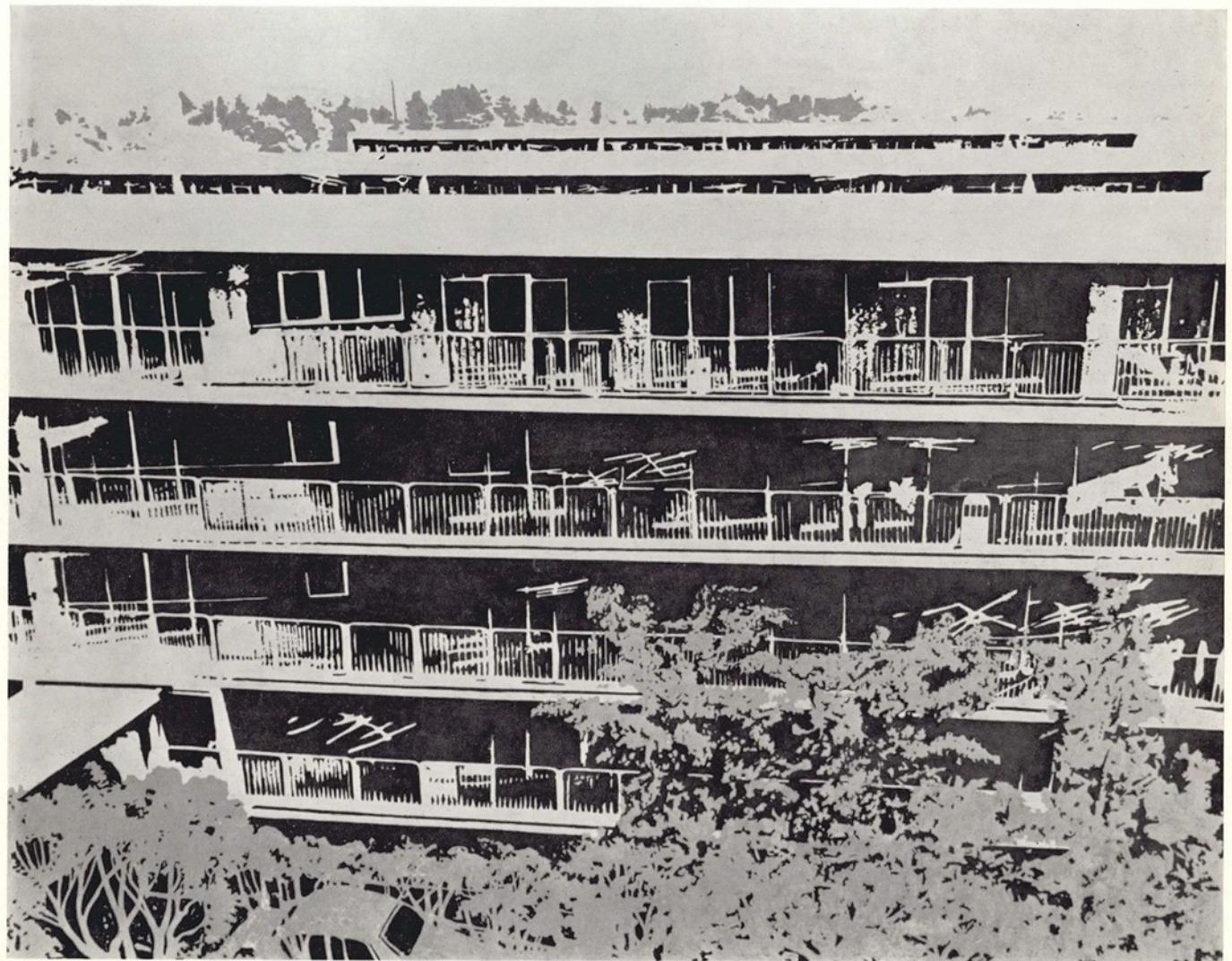
大賞 林 良達 騎士（工芸）



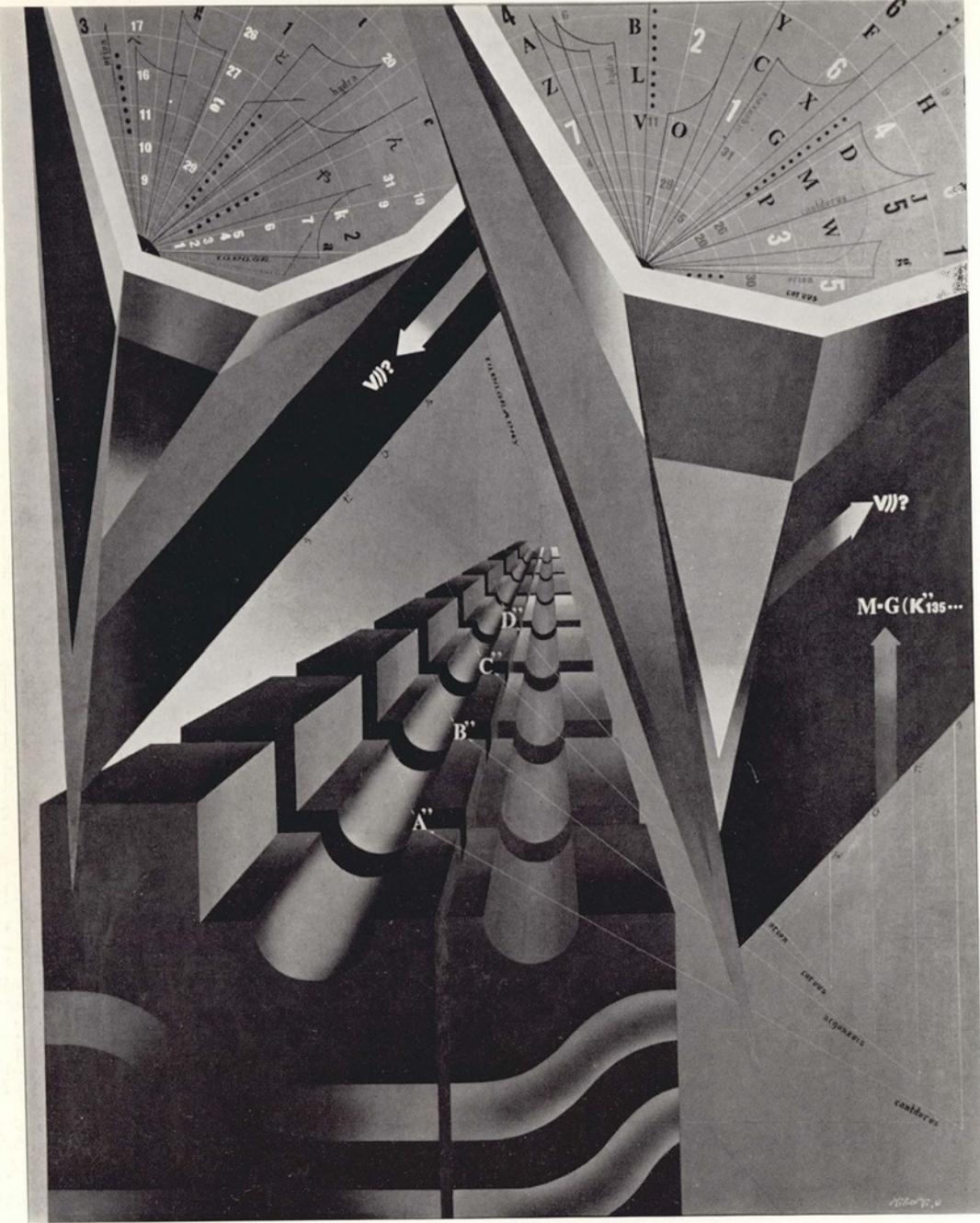
神奈川県立近代美術館賞 加藤敏夫 浮遊する卵形(昼) (日本画)



県議会議長賞 三繩 健 逃（日本画）



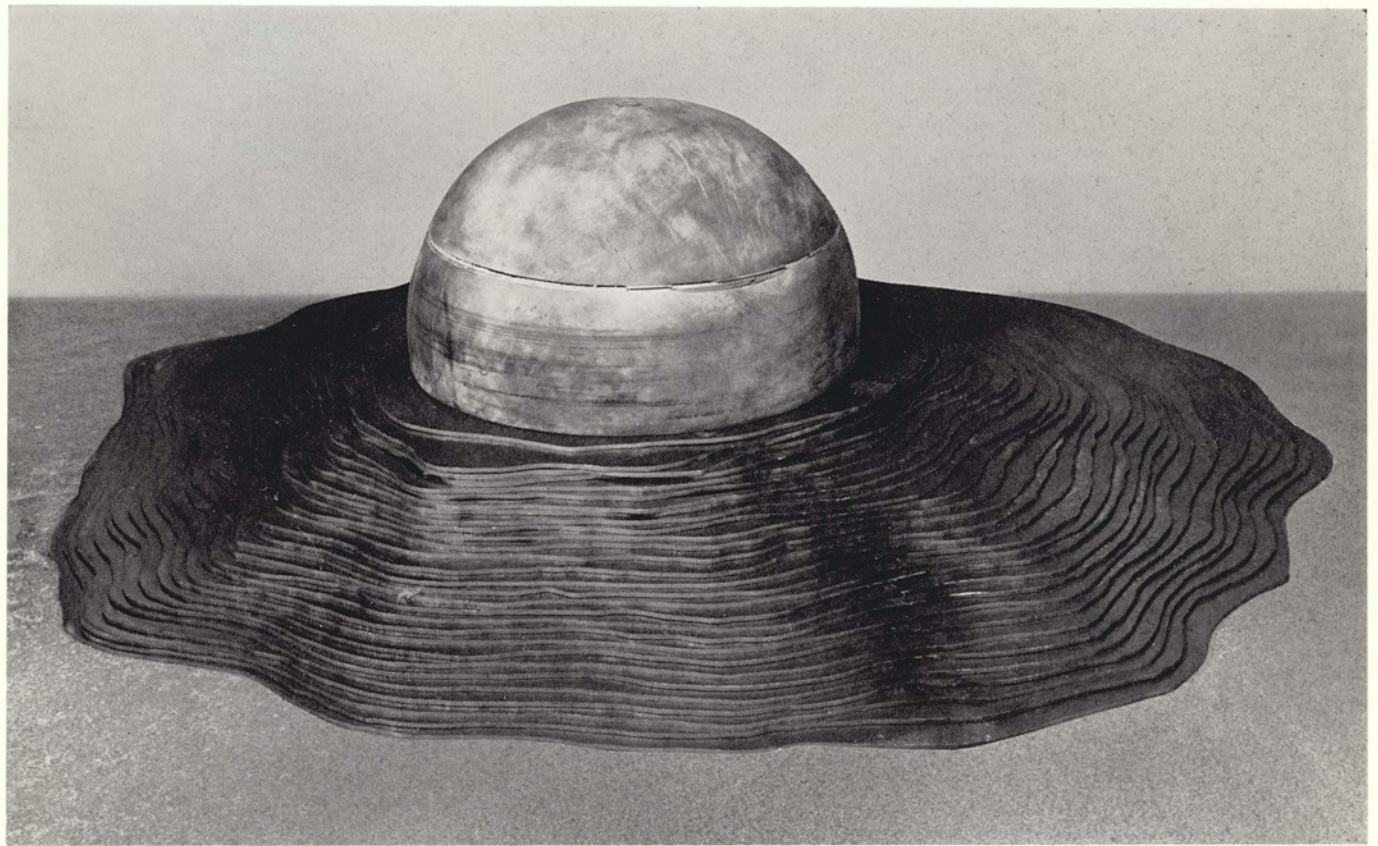
美術奨学会賞 鳴 剛 無題（洋画）



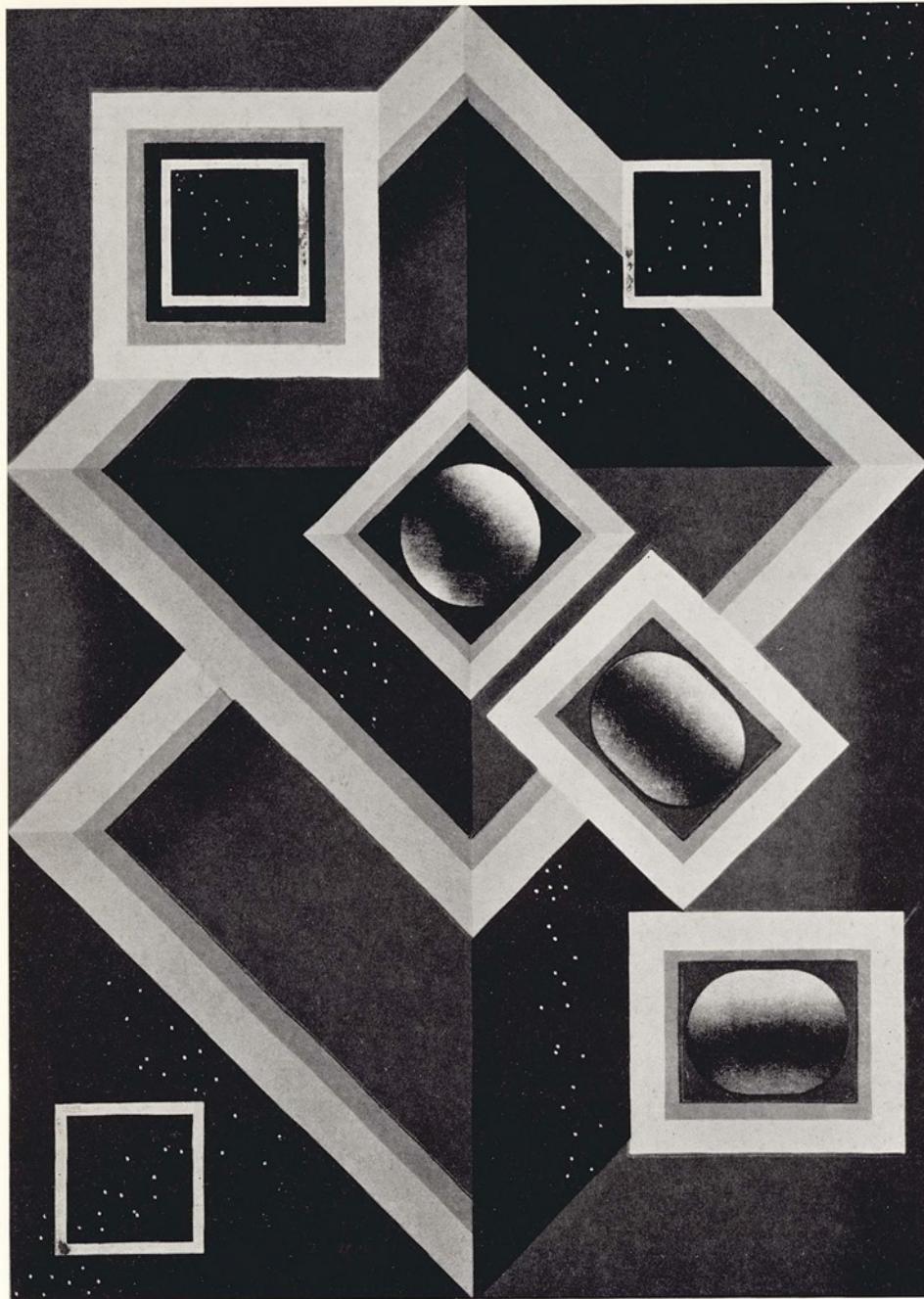
美術奨学会賞 植田曠躬 トポグラフィ III (洋画)



美術奨学会賞 柏原花子 立つ (彫刻)



美術奨学会賞 山本衛士 Mountain -5 (立体造形)



特選 西田知子 虚空 No.7 (版画)



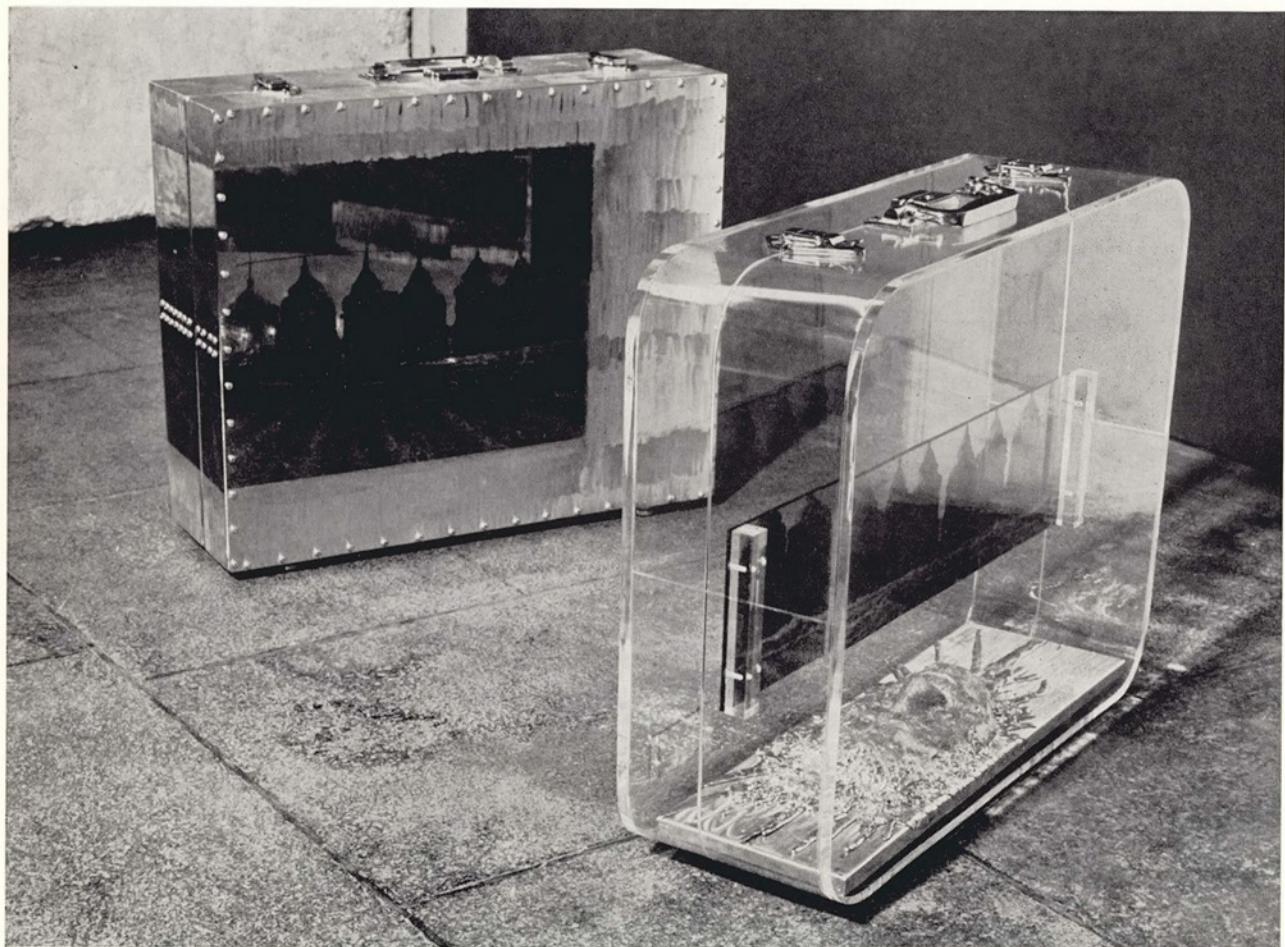
特選 山下清澄 立像〈見知らぬ女 3〉(版画)



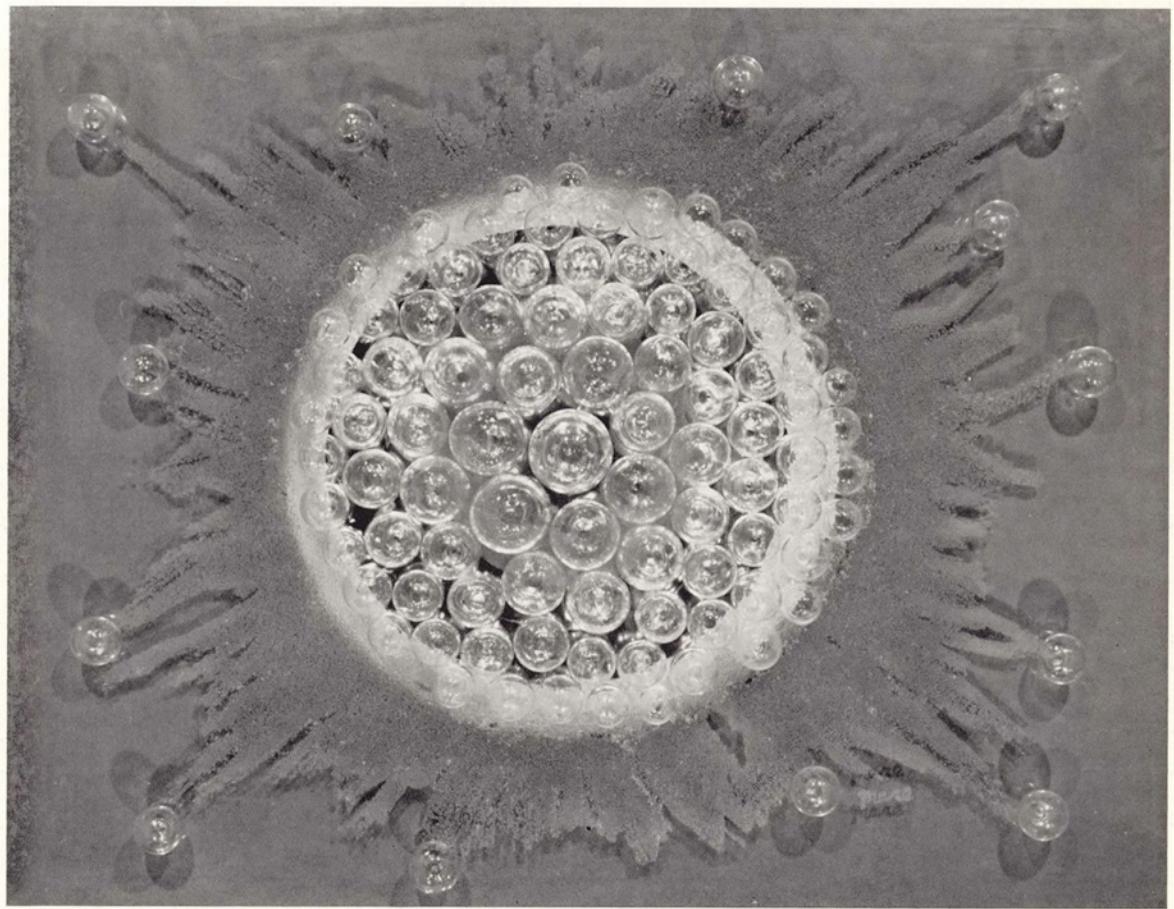
特選 香野ルミ子 海辺の花嫁（日本画）



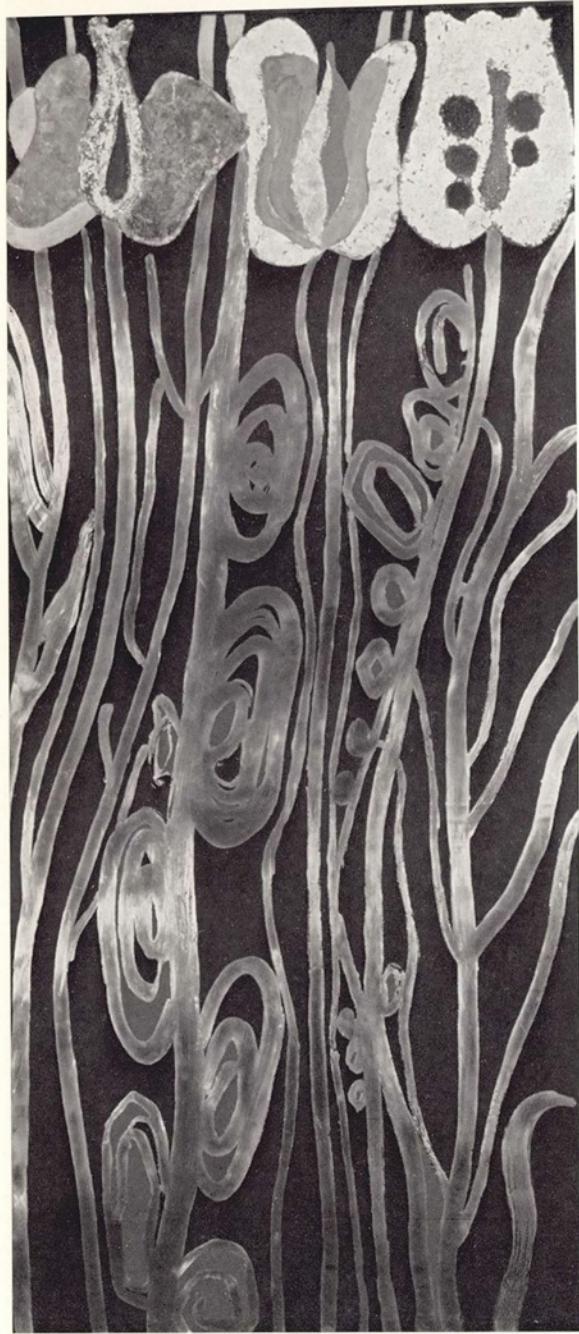
特選 深沢三枝子 群(彫刻)



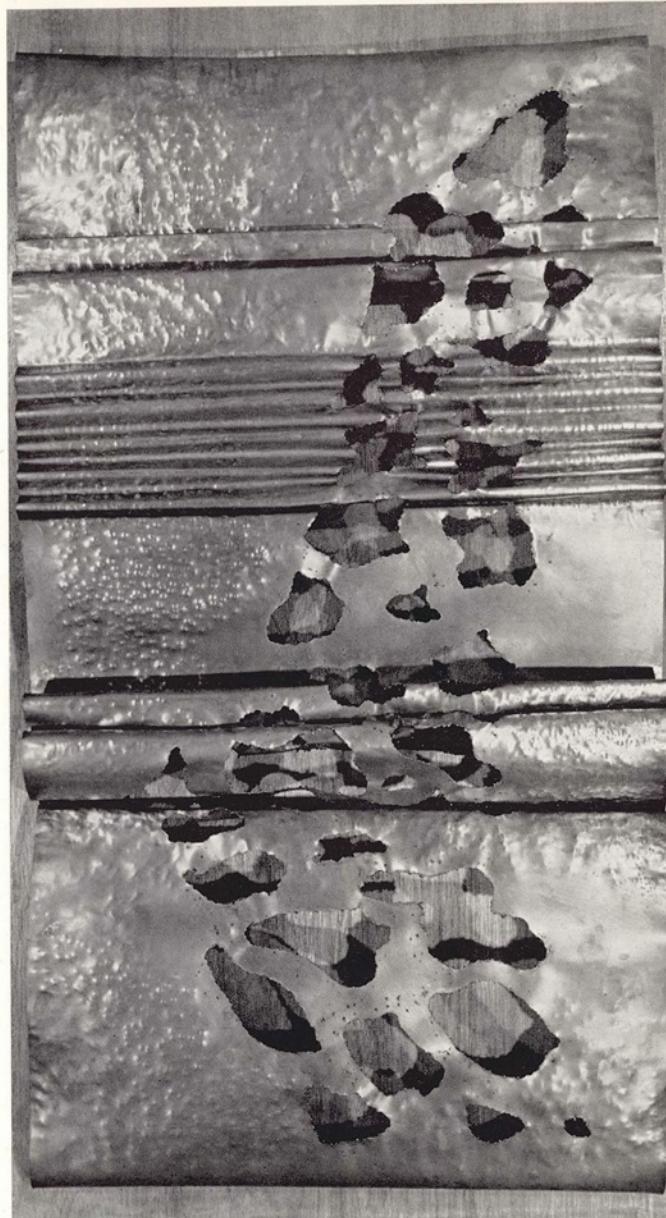
特選 高橋 勝 旅行者（立体造形）



特選 大宮希敏 ミクロコスモ



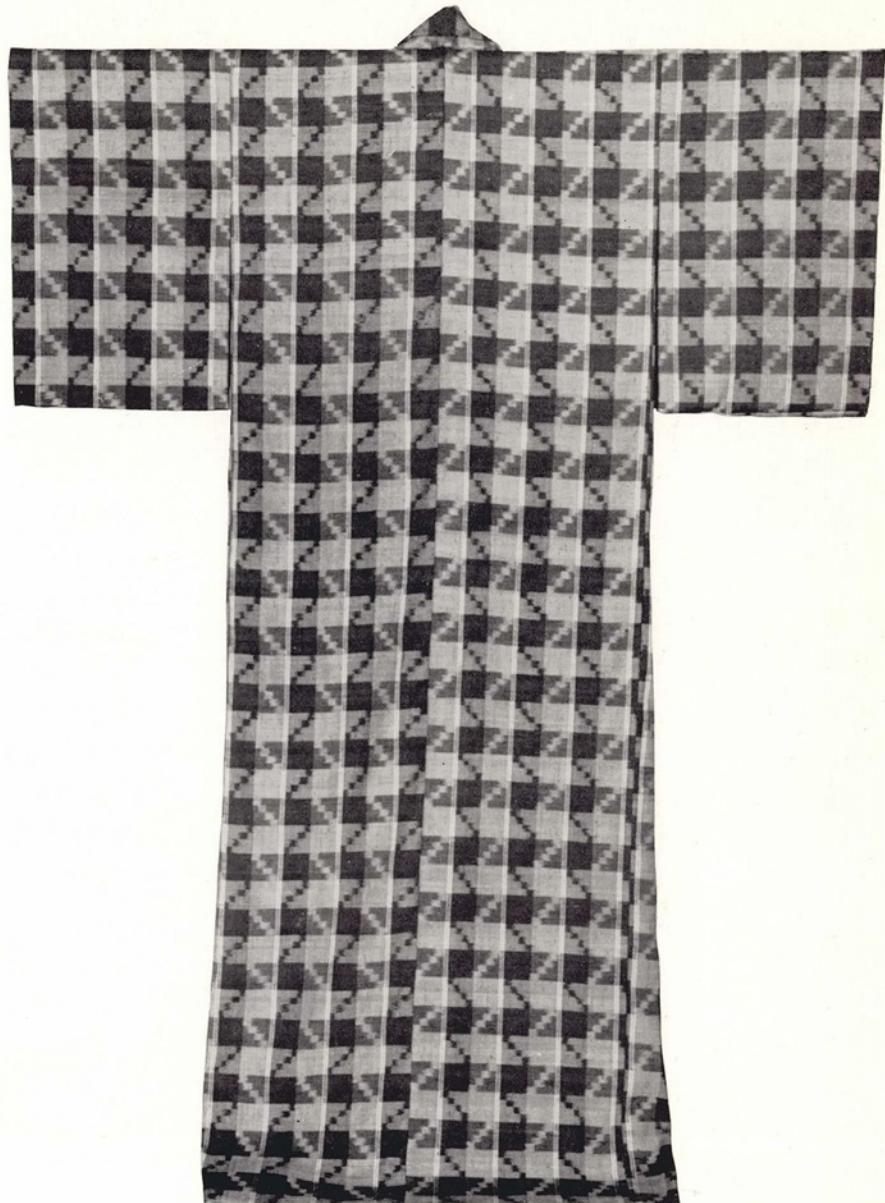
美術奨学会賞 菅間ゆみい 月のひかり



奨励賞 森かよ子 潮路



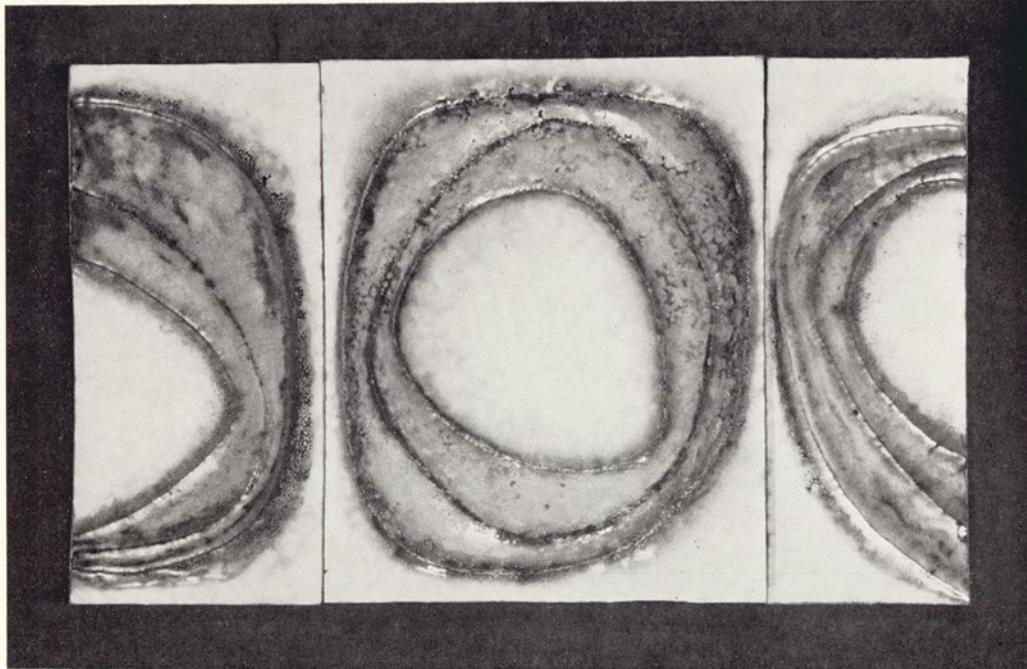
奨励賞 大菊昭治 流紋



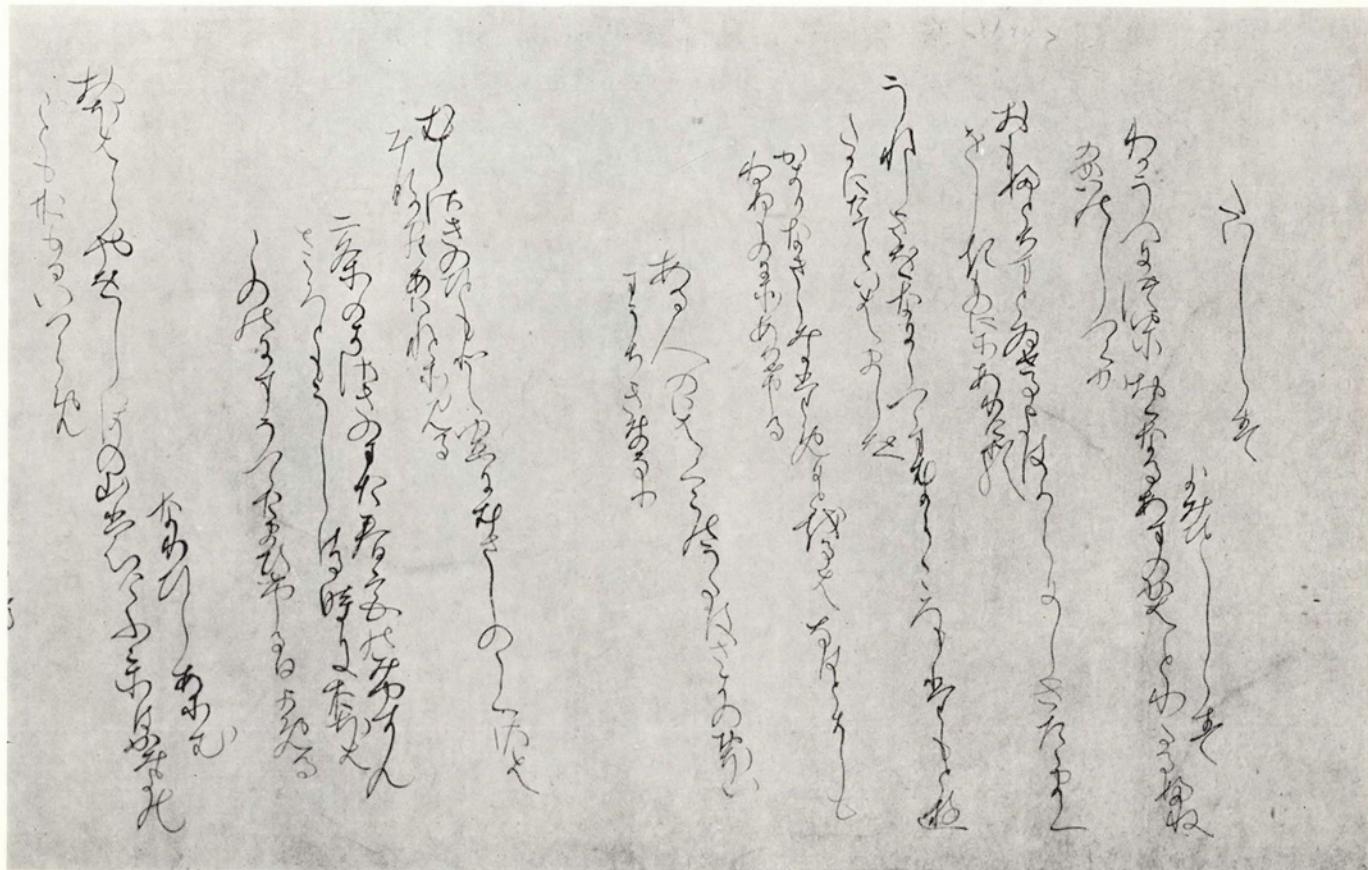
奨励賞 浜田真爽子 細着尺「ゆく春」



奖励賞 橋本公恵 北方の春



奖励賞 川地明子 和



特選 松橋勝子 古今和歌集 23種（部分）

西接重雲闊四眸
車蓋環三柳
此詩依馬歸之舊稿有悲歌之意而西幕不拘其辭
參看詩
舟芳書

特選 水川舟芳 西接省即事

西風乍雨朝朝暮暮
畫堂紅葉秋聲
年年一月一過日
自天牛澤丹楓子

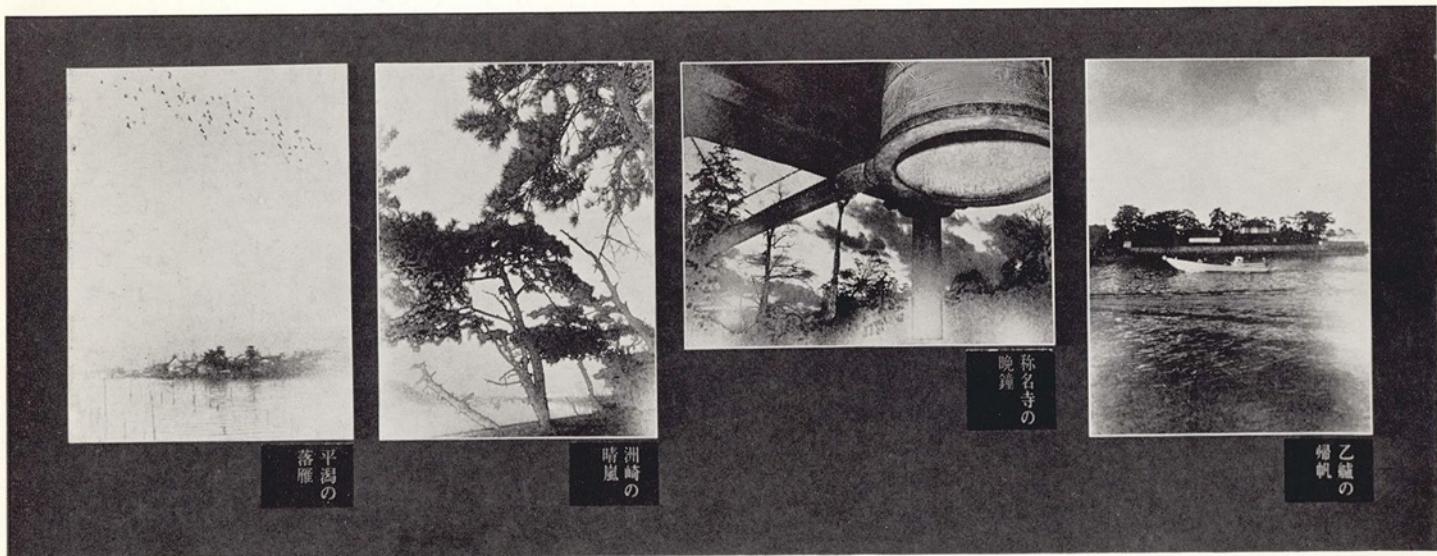
特選 浦野宏子 牛澤丹楓

月華庭上對春
去歸留語未
醉嫁入歸
醉來輕白
炬燭輦金
城下支官
歌相與事
真過多
教咲明山發

青洲書

宮中行樂詞
李白詩
美術獎学会賞 陳撫鳳 許渾詩

写 真



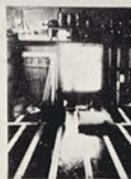
特選 加藤惣平 金沢八景 1



特選 加藤惣平 金沢八景 2



美術奨学会賞 高橋弘行 しあわせ



孔雀うるし
会津若松市



岐阜提灯
美濃小垣町



桐下駄
会津喜多方市

奨励賞 海老塚光男 手職 上



こま
相模原障山

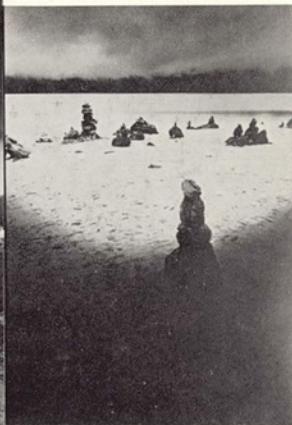


硯
甲州高沢



岐阜蛇の目
美濃加納

奨励賞 海老塚光男 手職 下



奨励賞 坂内一夫 霊場 3枚組



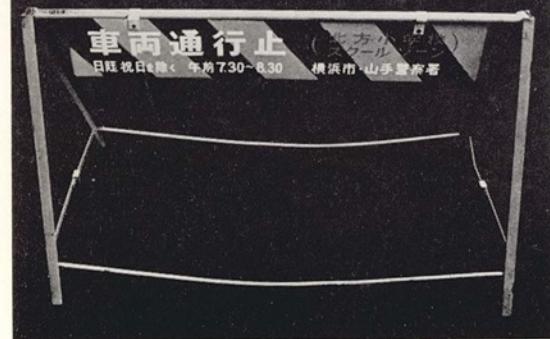
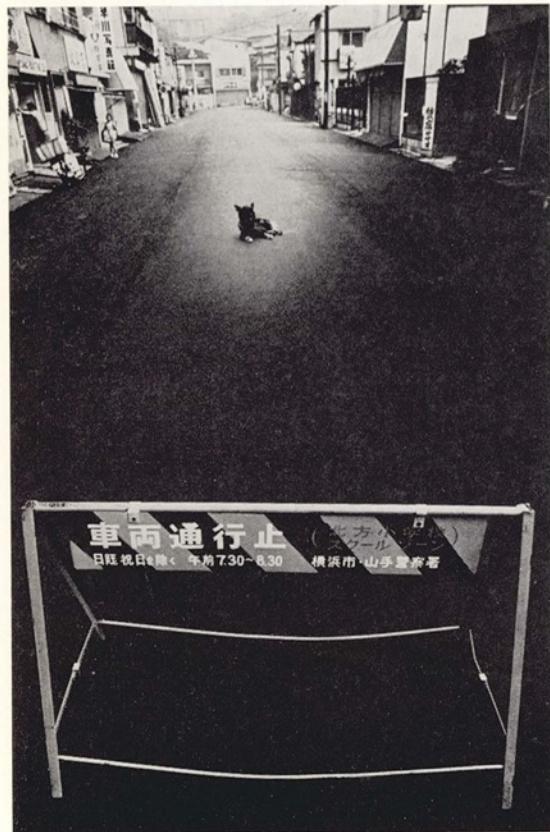
奨励賞 田中清隆 微光（一の倉沢）カラー



奨励賞 佐藤裕弘 オーハンゴンソ



奨励賞 平本昌義 恐山の印象 3枚組



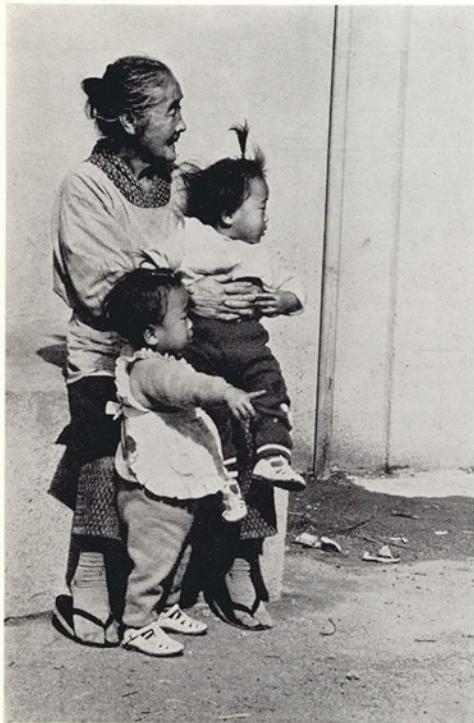
奨励賞 院瀬見統吉 或るひととき



奨励賞 石山恵子 夢の中



奨励賞 青木繁雄 吾が家のペット達 3枚組



奨励賞 下郡洋一郎 おばあちん、あれなあに



奨励賞 菊地喜保 少年

コンクール部門出品目録

絵画・彫刻部門

入賞

大賞

佐々木 英夫 人間の風景 1, 2 版画

神奈川県立近代美術館賞

加藤 敏夫 浮遊する卵形(昼)、(晏日)
日本画

県議会議長賞

三繩 健 逃 日本画

美術奨学会賞

鳴 剛 無題 洋画

植田 曜躬 トポグラフィ I, III 洋画

柏原花子 立つ 彫刻

山本衛士 Mountain-4, 5 立体造形

特選

香野ルミ子 海辺の花嫁 日本画

山下清澄 立像<見知らぬ女> 2, 3 版画

西田知子 虚空 No. 4, No. 7 版画

深沢三枝子 群 彫刻

高橋 勝 旅行者 立体造形

入選

日本画

吉崎福子 華(はな) I

石踊紘一 まどろみの中の朝 あした

佐藤隆良 谷戸

飯野静江 相

大島実 旅程

鎌田方晴 だん

仙波存乃恵 光を守る

伊藤 彩耳 ひだまり

浅見信夫 繕(一)

岡本進 消えた日輪

油野由美子 叢貌
小島敬介 夜のメルヘン

洋画

佐藤平七郎 はこぶね No. 1
塚越仁慈 パリの一時

北郷 隆 そして、そして私は、I
江川光信 やつで(三)

北村和士 6.4 ~ 8.30
多田 実 過疎の譜A

森秀男 哀
菅野昌実 牛家族

松野俊雄 対岸 B
日下部良平 文字発祥B

中嶋巖 聖衆来迎図
桂宏 倉庫

野田裕示 Thirty-Six Soldiers
田辺修 室内 B

渋谷利夫 ワールド73(2)
山下征治 首飾りの女

野原松栄 blind
竹村皓子 女の顔

青木道夫 ユディットのいる静物画
千葉文隆 作品 1

内柴静子 現象その2
青木誠一 淋しい山のある街

香川猛 冬の村(その1)
土屋良雄 景象 M

ヨシカワカユウ 花子さんのお正月(B)
依田瑠子 船着場

島谷晃 もえる
小田久 ROOT 4

田沢昭男 作品 2
熊沢淑 有

山脇真人 休む人
三浦紘善 WORK—I, III

白石明男 Plan of woman (1)

水彩画

小池基弘廻る風景

版画

曾我朝彦 神曲(地獄の門)
佐久間正彦 リンゴのある風景

杉本和人 言葉による知覚神経作用
北川健治 微笑む家族

北見忠雄 私記
佐久間恭子 輪廻

高橋功 夢想鹿おどり '73 Z
一色智嘉子 SUNDAY I, II, III
成田進 岩ヶ崎異聞

彫刻

金井直美 裸婦
小沢史雄 青年の像 B

倉庫 守女の首
野田裕示 少女の首

田辺修 K君
渋谷利夫 Tさん

山下征治 中村宏
金子篤司 霧氷

野原松栄 小野沢健一
竹村皓子 男の首

青木道夫 石井房枝
千葉文隆 風の中に

内柴静子 久永千代子
青木誠一 裸婦

青木誠一 季赫
吉崎福子 黄衣の少女

吉崎福子 佐々木実
吉崎福子 北沢一伯

吉崎福子 清水誠一
吉崎福子 下倉節子

吉崎福子 池内さん
吉崎福子 想い

吉崎福子 佐々木実
吉崎福子 木靈

吉崎福子 中馬洪治
吉崎福子 業火

立体造形

ニシワキユリカ 流れだす空間
中町薰 不思議な現象が認められた時

栗原昇 予想変容物体
小野二郎 一晴のち雨

小野二郎 集積
岡本進 むとうかずお

小野二郎 転移 2

白井勝宏 溫度
 富田真州 作品 No.73
 伊藤康彦 風景
 中島憲一 熱い木
 高嶋強 ブラウン管と木
 長谷川裕倫 a piece of paper or a sheet of paper
 中林富紀子 Mの構造
 大道正幸 可逆・下可逆
 望月菊磨 Catastrophe wall and Floor
 川上左池子 ポイント
 新関茜 ある植物

工芸部門

入賞

大賞 林良達 騎士
 特選 大宮希敏 ミクロコスモ
 美術奨学会賞 菅間ゆみい 月のひかり
 奨励賞 橋本公恵 北方の春
 大菊昭治 流紋
 森かよ子 潮路
 川地明子 "和"
 浜田真爽子 細着尺ゆく「春」

入選 佐藤靖房 扁壺芽立
 山上憲一 鼠志野壺
 加藤寿之 灰釉壺
 松本幾子 輪 B

加藤 皇 ō
 加藤 富美子 溶解
 後藤 寿美子 聖なる河
 赤井 恵美子 夕映え
 島津 初枝 群鶴
 平田 徹子 高地に拾う
 永田 秋岳 栗文硯箱
 佐藤 昭子 流象
 津田 照代 コブト織タペストリーII
 野田 利子 秘めごと
 村上 たま 水平線
 加茂 洋子 桜桃
 五十嵐千代子 萌芽
 越智 美由生 ふたつの太陽
 磯部 景子 つづれ織壁掛
 小野寺 玄 异流文深鉢
 前仲 万里子 鉄描赤絵壺
 前仲 邦哉 影青鉢
 小菅 春代 热砂
 佐久間 健一 椿文鏡箱
 渡部 はつ子 福寿草
 山崎 重藤 灰流し備前花入
 木内 隆 盛器
 竹内 佳夫 華苑
 竹村 佳男 街
 堀 親子 流
 樋村 允彦 態
 綿貫 清 七宝編竹盆
 熊沢 厚子 華(はな)
 白井 とみ子 海の底
 大柴 裕子 Pomme
 榎本 未生 暗闇の痕跡
 水谷 恵子 マグマ and マントル
 空閑 素子 作品
 立花 啓子 夕映え
 中倉 恵子 Yesterday

重松 隆子 砂動
 堀 久代 森と湖
 村木 朝司 鶩と芒文灰釉壺
 森 富ゆかり 対話
 安齊 和美 芭蕉布藍染小紋
 神山 尚子 日和(ひより)
 東枝 智之 壺
 江成 房子 さむくなつかな
 森脇 敏 跳 I
 安田 律子 伊羅保花文鉢
 乾 定夫 色紙箱「椿」
 松島 芳 八角鉢
 杉田 紳美 滯
 前田 純一 檜摺漆文机
 多賀 薫 rpm・001
 南雲 陽 白い街
 赤羽 章子 作品 3
 山岸 南子 再生
 小林 修子 ショール
 藤塚 洋史 木もれ陽
 佐野 陽三 切立丸盆
 八子 次郎 オブジェ「街」
 大平 美智子 No.1

書部門

入賞

特選 松橋勝子 古今和歌集 23種
 水川舟芳 西掖省即事
 浦野宏子 牛澤丹楓
 美術奨学会賞 陳撫鳳 許渾詩

酒井賞

飯 原 青 洲 李白詩「宮中行樂詞」
入選
 宮 川 フ ジ 和 歌
 平 田 十 叢 高適詩「醉後贈張九旭」
 岡 部 静 江 針 切
 土 屋 栄 王安石の詩「散髮一扁舟」
 鈴 木 徹 男 敦沫若之詩
 遠 藤 華 橋 元永本古今集
 久保田 昭 子 和 歌
 秋 山 松 香 万葉の歌
 真 柄 百合子 藍紙萬葉集
 近 藤 幽 翠 春 寒(七絶)
 大 石 幽 抱 帰 雁
 竹 下 幽 光 春夜洛城に笛を聞く(李白)
 若 林 幽 蘭 七言絶句(李白詩)
 鈴 木 玉 葉 天門山を望む(李白)
 竹 内 凤 仙 備
 加 藤 翠 鄉 王維藍田山石門精舍
 代 田 寳 山 梅堯臣詩
 矢 島 撫 周 李商隱の詩
 服 部 磐 香 李青蓮詩
 平 田 白 虹 高青邱詩
 山 本 撫 猶 陸游詩
 四 宫 撫 琴 陶淵明詩
 奥 田 撫 香 李商隱詩二首
 伊 東 撫 劍 詩徑廻鳳
 瀬 戸 翠 窓 良寛詩
 増 田 光 子 萬葉集歌
 鈴 木 鶴 芳 萬葉集
 吉 川 敦 子 久方の(和歌一首)
 中 島 弥 栄 子 五言律
 中 山 雅 恵 和 歌(古今集)
 早 瀬 香 谷 寒山詩
 吉 沢 菁 婦 李白詩(草書)
 橫 溝 珪 洲 李商隱詩

藤 城 紫 竹 寒山五言律詩
 井 田 武 山 七絶三首
 柳 青 亭 漱石詩
 志 村 典 子 古筆臨書「関戸古今集」
 石 井 蘭 如 良寛の詩
 鈴 木 明 如 良寛の詩
 篠 田 朋 泉 奉和聖製從蓬萊伺興慶閣道
 中留春雨中春望之作応制
 千 葉 南 道 蘇東坡詞
 村 上 紫 茜 七言律詩
 河 野 松 藍 新古今和歌集
 進 藤 静 石 黄山谷の詩
 阿 部 愛 子 か な
 日 野 珠 光 陸游詩
 大 庭 紫 苑 新古今二首
 佐 々 木 青 雲 李邑詩
 西 堀 紅 处 黄庭堅詩
 丹 羽 蒼 处 李長吉詩
 生 島 静 月 白居易詩
 赤 松 萬 寿 枝 吉井勇歌集抄

下 郡 洋 一 郎 おばあちゃん、あれなあに。
 田 中 清 隆 微光(一の倉沢)
 坂 内 一 夫 靈場
 平 本 昌 義 恐山の印象
 青 木 繁 雄 吾が家のペット達
 菊 地 喜 保 少年
入選

北 嶋 秀 隆 Diary
 村 岡 秀 男 おんな
 小 倉 正 明 曼珠沙華の想い
 山 田 武 土砂降
 相 川 宗 八 秋の森
 小 野 政 幸 いっぷく
 岸 秀 典 サロマ湖落日
 鈴 木 武 双十節
 石 川 模 男 感激の瞬間
 高 橋 好 信 浄妙寺
 中 島 倍 三 生贊(シャランポン祭より)
 吉 田 政 行 朝つゆ
 近 藤 邦 輔 少女
 加 藤 和 夫 雪だるま
 石 田 太市郎 蛇も蛟も
 長 谷 川 清 朝の陽
 石 川 正 一 バングラディッシュの少女
 峯 岸 誠 一 路上の歌と踊り
 鯉 登 勝 彦 西の市が終る頃
 石 川 正 明 本日閉店なり
 西 尾 勝 美 施設の子供
 小 林 秀 俊 街 角
 大 九 三 郎 信 仰
 重 野 音 吉 女ごころ
 神 山 勝 三 断崖の靈山 岩船
 中 村 光 男 絲
 堀 坂 和 夫 競り合い
 加 賀 原 張 悅 出札口
 江 口 多 鶴 若 者

写真部門

入 賞

特 選

加 藤 惣 平 金沢八景

美術奨学会賞

高 橋 弘 行 しあわせ

奨励賞

佐 藤 裕 弘 オーハンゴンソ

海老塚 光 男 手 職

院瀬見 統 吉 或るひととき

石 山 恵 子 夢の中

鈴木定次 薪能
長尾 宏 上野駅で見た女性
木村有一 厳冬
井上美根 ばーちゃん
深瀬彌 神父マチヤ
円木健市 野のほとけ
金親敏雄 浜辺の印象
青木 豊 TAKE OFF
鈴木 勇 砂丘風景
渡辺 馨 ハタハタの取れるころ
丸山のぼる 明るく伸びる子供たち
吉田健吉郎 古寺一隅
大平春夫 踊子
鷹狩三郎 紅富士
生沢敏夫 夢
野島三樹 秋晴れ
瀬戸久雄 紅葉
鶴頭宏行 老人ホームにて
望月資介 白い道
伏見 宏 春雷
笛尾佳夫 ダイビング
杉山寿一 波の華
木口三郎 飛翔
鈴木多佳 小さな冒険
鷹羽金蔵 夕靄
新井義弘 チャキラコ
水野紘一 人形供養
伊東 弘 穂高三題
まなべかずこ 流れ

コンクール展講評

総評・洋画

神奈川県美術展も第8回を迎える、総作品の技術的な水準が一般に高度を示していることを、ぼくはよろこぶ。

コンクール部門として技術的水準の高度と創造的冒険性とを併せもつことをいつも期待しているが、現代美術の状況を反映したためか、やや停滞しているのではないか。ぼくとしては、大賞となった佐々木英夫の版画「人間の風景1・2」、加藤敏夫の日本画「浮遊する卵形(昼・曇日)、三綱健「逃」、洋画の鳴剛「無題」、植田曠躬「トポグラフィ」、立体造形の山本術士「Mountain」など、それぞれの性格を示して注目すべき作品であった。受賞作家は全審査員の過半数を以て推せんされた。

入選作品のなかに、ひかれる作品のあったことも附記しておきたい。次年度に、時代の新しい表現を強く期待したい。(土方定一)

日本画

昨年にひきづき、本年も日本画の出品作のレベルが安定してきたことを痛切に感じた。油絵とちがって、出品点数は少なかったが、それは技法的にある程度以上の修練を積まなくてはならない日本画の特性からで致し方ない。だから、箸にも棒にもかからないような冷やかし的な駄作は皆無で、13歳の少年画家の小品が一点あったものの、それと一生懸命さが現れており決して不真面目なものではなく残念にも一步ゆずる結果になった。

審査員は全国的な県展コンクールの審査にたずさわり、また他県の県展審査の経験もある人たちだったが、本県展の日本画作品のレベルは今年も他のどこの県展にもまけない、高く安定した一定の線以上を確保していたと異口同音だった。これは本展の落選作も他県だったら入選していただろうということになる。どうか一層の精進努力を願いたい。

本年は、例年の有力定連作家が余り顔を出さなかったにも拘らず、堂々たる力作を選出できたのが嬉しかった。新鋭の進出と実力向上が十分にうかがえる。これら新鋭作家の力が今後の県展を支える大きな力となるであろう。こうした新旧作家の交替が活潑であればあるほど県展の興味は一層たかまり、その使命も達成されるのである。

(竹田道太郎)

彫刻

昨年より、五割余の出品増であった、内一割は、出品する部門を間違ったと思われるものや、標準に達しないものであった。八割は習作と云えるもので、その差は僅少であった。残り一割ほどのものに、自己を主張しようとするものを感じることが出来、賞はこの中から選ばれた。彫刻の条件として、第一に、自然の法則を消化した上で、自己を主張する、独特なフォルムを有すること、第二は、絶えざる修練によって、独自の技術を開発すること、それが、特殊の美しい材質感を造り出すことにつながる。今日、使われている材料を、自由自在に、駆使出来なければならないのだが、粘土さえ自由にこなせない人がある。只自然描写をしているだけで、どうしても、これだけは言わずに居られないほどの情熱が欲しい。フォルムの中に、精神的次元が加ってこそ強く、見る人を打つ。具象をやりながら、基本をおろそかにし、興味本意のデフォルメになっては、進歩がない。うまくいかない時やスランプにおちた時はもう一度、基本に立ち帰り、やり直すことを心がけたい。尚大木と取り組んだ人の意は壯とするが、独自のものに乏しく、技もまた稚拙であったことを惜しむ。

(菅沼五郎)

立体造形

出品者は比較的年齢の若い人達が多いせいか、現代美術の今日的な混迷、先細りの状況をそのまま反映しているような傾向が見受けられる。観念と言ふには余りにもひ弱な思いつきや、浅薄なパターンが目につくばかりで、思考の奥行きや屈折が感じられない。

昨今の、すべてが白昼化してしまうような社会的風潮の中では、あらゆるもののが見えにくくなっているのは事実だが、即物的な、一つの起きかえ作業を通して語ろうとするからには、透徹した思考や、提出された言葉の明確さが要求されるのは当然ではなかろうか。特に、題名も作品の一部であると考える私には、不明瞭な作品名に多々接して困惑せざるを得なかった。もっとも、最近の美術の浅薄な商業化の中で、一片の言葉を探し求めて悪戦苦闘しているこれらの人々には好感が持てるし、興味深い作品が皆無だったわけでもない。

例えば、山本衛士氏の作品は、地形図のような山の頂きに、唐突に物体を置いたものだが、その唐突さが見る者の想像力を一瞬ゆり動かす不思議な力を秘めていた。私達はこの作品に強く執着したが、最終の場で大賞を逸してしまったのは残念と言うほかない。又惜しくも受賞を逸したが、臼井勝宏氏の錯覚を利用した作品も印象に残った。

(岡本信治郎)

工芸

神奈川県美術展も第8回を迎えて出品作品の内容も充実して来ましたが、特に工芸部門に於ては140点の搬入数であり、これは他県には、その例をみない県在住作家の制作意欲の旺盛なあらわれです。この良質の卵から次代を担う優れた工芸美術家の輩出を期待して鑑審査に望みました。案の定、厳選となり、72点の入選作品と8点の受賞作品を決定しました。全般的に作家の指向するものが自由、且つ、豊かな創意が、それぞれの素材を駆使して、従来、とかく工芸は職人的だと云われた臭いが少なく、その具現されて居る作品は清冽で見る者をして、まことに好感を持って見ることが出来る。特に染織の作品は多く、デザインも斬新なものと、布、繊維、染料の素材を巧みにこなしして絵画的要素を充分に發揮した作品もあり、又、金属、硝子、七宝、木、などの素材を活用、時には併用して現代の息吹を充満させた、実に頗もししい作品もある。而し乍ら、一方には、いまだに従来の手芸、趣味的な低俗な考え方の作品もあるので今後、造型美術として根本的に研究する必要がある。言う迄もなく造型美術の要素と素材と技法を駆使することは工芸美術家の宿命であるので、この点についても大いに日頃、反復トレーニングする事が課題である。扱、この度の大賞の林良達の作品は入選した貧困なる陶芸作品の中にあって他を圧して居る。彼は近頃、稀に見る若い世代の思想を反映し乍らも逆に力強い造型理念を持って、たえず、造型構成を土により簡潔な偏壇にぎりぎりに迄に造型追求を心めた深淵な作品である。又、表面処理の鉄釉の焼成も見事であり、場中に於ける白眉であろう。他の受賞作品も、それぞれユニークな存在であるが、受賞の運にもれた入選作品にも大いに期待出来る作品も数多いので、これから研鑽が楽しみである。

(蓮田脩吾郎)

書

公募点数に於ては、去年度より若干の減少を見た。これは書のみならず工芸、写真部門にもあらわれた現象であるが、年々向上する出品作品のレベルから見ると本年度は出品下部層の減であって、これは思いつきや安易な気持の出品層が減ったことであり、神奈川県美術展というものを真剣に勉学の目標としている出品層の減ではないということがうかがわれる。わたし達はこの層の出品者の増こそ今後の神奈川県美術展の在り方を左右する大きなポイントと考えて今後はこの層に努力を払う積りである。この種の県展としては非常に厳しい入選率が敷かれるが、これは神奈川県美術展のもつ一大特徴でもある。

入賞作品は各々真剣味溢れたものであって頗る好感が持てるものが多く、中央展でも充分通用すると思う。おしくも微差にて入賞をもらした者も捲土重來を期して一段と奮起をして貰いたい。

要は神奈川県美術展の存在と目標を充分理解して今後の発展を期待したいものである。

(殿村藍田)

写真

今回の公募数は、前回より少し減じましたが、初步的な作品が減少して、全体のレベルは向上しています。しかし前回にくらべて、傑出した力作が少なかったのが残念でした。今回は入賞作品に、高橋、石山、下郡、平本、青木の五氏の新人の進出を見ましたが、新人の今後の躍進を期待します。

特選の加藤惣平氏「金沢八景」は、二度目の最高賞受賞に輝くだけに、全作品を通じて、技巧のさえは抜群です。金沢八景という撮りつくされたモチーフを、古く伝えられたイメージを現出するために、ソラリゼーションや反転等を駆使して見事に表現した。美術獎学会賞の高橋弘行氏「しあわせ」は、雨あがりの銀座歩行者天国を車椅子の青年と手を握りながら進む少女との清潔な青春が、よく描かれています。これこそ、スナップ写真の良さでしょう。しかし審査員の中から、「しあわせ」という題名には疑問があるという意見がありました。この作品に限らず、題名には大いに考慮してほしいと思います。

奨励賞の10点は、それぞれ秀作ですが、ベテラン田中清隆氏「微光（一の倉沢）」は、谷川岳周辺の峻烈な山相を渋いカラーで表現しました。海老塚光男氏「手職」は文字通り努力作です。坂内一夫氏「靈場」と平本昌義氏「恐山の印象」は、同じ下北半島の恐山を取材して、全く異った感覚で、面白い対照でした。

(奥村泰宏)

審　查　員

日本画・洋画・水彩画

版画・彫刻・立体造形

大 森 運 夫

加 藤 東 一

竹 田 道 太

森 田 曠 平

江 見 絹 子

桜 庭 彦 治

志 村 計 介

勝 呂 忠 三

田 賀 亮 三

田 沢 茂 茂

田 辺 輔 透

寺 田 謙 透

中 谷 龍 透

土 方 定 透

益 田 義 透

加 納 光 於

棟 方 志 功

圓 鍔 勝 三

垣 内 治 雄

菅 沼 五 郎

松 本 繁 来

岡 本 信 治 郎

山 井 イ ク 夫

工 芸

赤 地 友 戯

磯 部 陽 子

市 橋 と し 三

各 務 鎌 郎

永 井 鉄 太 龍

南 雲 鉄 郎

蓮 田 倭 吾 郎

水 野 僕 夫

書 天 翠 嵐 山

大 島 右 羊 城

仙 場 幽 城

溪 口 真 洲

田 中 真 田

殿 写 真 田

青 木 誠 三 郎

江 間 泰 弘

奥 村 光 宏

影 山 光 洋

田 中 雅 子

常 盤 と よ 一

永 田 一

招 待 部 門

招 待 部 門 作 品 目 錄

日本画

小倉遊亀 夜梅
 向井久万 十一面觀音
 中島清之 春蘭
 森戸國次 好日
 山口玲潔 早春譜
 小松澄佳 庭草
 山谷裕子 繻
 結城天童 古城
 上田臥牛 裸婦

 洋画
 有島生馬 無人境
 足立源一郎 ネツテンベルグ峰
 高間惣七 鳥
 木下孝則 カーネーション
 中村琢二 伊豆の漁港
 中谷龍一 トレド
 野村光司 風景
 猪瀬踏花 ト拉斯テベレの家
 木下壽々子 マラッカ郊外
 木下米子 アネモネ
 小泉元生 風景
 源川雪 高原の初夏
 吉崎道治 風景
 岩館知義 トレド
 寺井重三 踊り子
 国領経郎 風景
 桜庭彦治 真駒内の並木道
 鳥居昇 人物
 新井康須雄 風景
 石田精吾 崖
 阿部和美 静物
 井口啓 海
 梅林良子 女の部屋
 矢野雅章 待春
 樋口善一 北アルプスの春
 桐生照子 風景
 佐々木文綱 ローマの花売り

出口竜王 shop
 坂本幹男 湘南の海
 三樹保 モンマルトルの袋小路
 添田定夫 立山
 内藤雅彦 新雪の八甲田山
 佐々木福基 花
 鈴木雪子 石仏
 増田常吉 風景
 川口栄 ピエロ
 佐藤美子 風景
 木村光江 花
 戸津文雄 山百合
 岡野正樹 山槍ヶ岳
 安喰虎雄 静物
 岩田栄之助 貝
 木下公男 48-1
 田代利夫 作品
 田辺謙輔 風景
 石川武彦 森の憩い
 田中寿太郎 サーカスの少女
 横尾丈夫 湖
 益田義信 風景
 山崎隆夫 富士
 赤岩賢三 合奏 73
 養田つや子 蘭
 石井佐一 日月親仔
 青木一美 少女
 安富信也 風景
 江見絹子 作品
 岡村芳男 フローレンスの街
 志村計介 風景
 土井俊泰 僮地の街
 西野久子 アフリカの女
 杉浦勝人 静物
 勝田寛一 裸婦
 勝呂忠 ユダ
 木村良枝 June

永井肇 風の形
 古川益弘 樹
 田中昇 イタリー風景
 堀内千里 猫
 鶴田猛 駅前風景
 田沢茂 木枯の詩
 小関利雄 子供と風景
 柴田善登 六百山
 安保健二 ニューイングランド風景
 小林義範 漁港伊豆
 濑島好正 かたち
 油野誠一 風景
 細井千鶴子 あらそい
 田賀亮三 作品
 広瀬一二 風景
 宇都宮マリ 雲の遊び
 井上俊郎 遺跡と人物
 塚谷政義 浮子と紙風船
 塚谷恵津子 静物
 森川ユキエ 置かれた玩具
 和田松久 二人の女
 稲木秀臣 作品Q
 寺田春式 春魁
 佐藤努 哀歌
 飯島義也 風景・勝浦にて
 千田高詩 あなたが絵を見るとき
 中西新太郎 絵はあなたを見る
 夕映え 夕映え

笛 英子	朽 石	慶 寺 丹 長	青銅花器 鐘乳	西 川 万 象	白楽天詩
浜田嘉代	越前岬	中 田 呂 尚	磯松文肩八角釜	大 西 芳 流	三 戎
水彩画		永 井 鉄 太 郎	オーガニック・コンボーズ	高 木 三 甫	万葉歌
進藤 清	海浜夜景	蓮 田 脩 吾 郎	連作朱銅壺あすか道	及 川 初 恵	飯田蛇笏の句"たましひの"
井上正子	ひがん花	府 川 一 信	飾金具 蛙	溪 口 幽 城	唐 詩
田中君江	街	中 村 萱 一	かまきり	大 道 静 波	晏幾道詞蝶恋花
三橋兄弟治	花と廃墟	山 口 壽 雄	茶の湯釜	殿 村 藍 田	春華二首
版 画		磯 部 陽	秋富士	中 村 松 堂	松堂作 七言二句
棟方志功	妙 猫 の 柵	染 織	暮 田 延 美	中 平 南 簡	二 言
田島宏行	赤い風景		佐 藤 も とい	西 村 西 洲	陶淵明詩
馬渕 聖	は な		廣 井 樹 美	船 橋 春 浦	萬葉集より
彫 刻		人 形	市 橋 と し 子	比 田 井 南 谷	輕
高田博厚	寝る女		前 田 金 彌	岡 田 扇 香	万葉のうた
安田周三郎	頭 蓋	陶 芸	河 村 又 次 郎	山 口 清 苑	唐 詩
武 次 郎	少女像 1, 2.		芝 山 吉 邦	松 岡 東 麿	陳羽五言律詩
井上信道	トルソー		南 雲 龍	吉 田 蘭 処	蘇東坡詩惠崇春江曉景二首
西谷富士雄	若い女		松 島 宏 明	鈴 木 龍 雲	韓愈詩
垣内治雄	萌出る		小 嶋 章 光	由 井 大 翠	花
菅沼五郎	トルソー		平 野 ト チ 子	萩 原 榆 風	龜定盦の詩
坂上政克			三 浦 勇	池 上 鶴 洋	袁宏道詩
伊藤芳雄	ハーテビースト		小 田 垣 要 司	中 山 鶴 雲	散 華
圓鍔勝三	馬と遊ぶ神鳥	木 竹	松 井 三 郎	島 津 碧 嵩	魯迅の詩
浅井行雄	裸 婦		馬 場 松 堂	仙 場 右 羊	春山如笑
圓鍔元規	若い娘		鎌倉彫 江刺栄一	田 中 真 洲	陶淵明四時
長江録弥	忍 び	七 宝	佐 野 登 志 子	写 真	
立体造形		佐 野 登 志 子	蝶	永 田 一 脩	サマルカンドの シャーヒ・イ・シンダ
高木敏行	虫	書	青 木 香 流	奥 村 泰 宏	ヨコハマ
山井イク夫	LANDSCAPE - 1		不 退	江 間 弘	曉に翔る
工芸			天 野 翠 琴	内 山 知 治	戸 隠
漆芸	赤 地 友 哉		良 寛 和 歌	青 木 誠 三 郎	奥滋賀の春
	曲 輪 造 彩 漆 盆		長 島 南 龍	塙 田 正 男	タイ アユタヤの遺跡
	赤 堀 郁 彦	鵜 飼 寒 鏡	承	須 田 恒 弘	モンブラン山塊
	展 開	大 島 嵐 山	無 門	里 見 力 磨	残 照
	飯 野 啓 三	重 田 翠 村	五 言 律 詩	野 沢 喜 七	晚 春
硝子	各 務 鎌 三	鈴 木 小 江	小 景 扇 黄 山 谷 詩	鈴 木 登 美 太 郎	秩父屋台より
	クリスタル花器	一 句	佐 々 木 如 空	平 山 勉	狂言 鎌倉薪能より
	吉 田 文 夫	川 口 芝 香	良 寛 之 詩		
	萌 春	萬 葉 の 歌	志 賀 正 枝	正 谷 正 夫	
	青 野 武 市	佐 々 木 貢	春 の う た		
	ク ル スタルオブジエ	積 容	斎 藤 丹 鶴		
金工	小 林 貢		覺		
	今 井 久 江				(順 不 同)

